

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	桂雀々独演会			
目的・内容	県内では鑑賞する機会の少ない「落語」を開催することで、日本古来の笑いの文化を体感し、広く県民が古典芸能の良さに触れる鑑賞機会を提供する。 【使命】文化人口の拡大とレベルアップ、県民へのサービス推進 【事業の柱】男性鑑賞者の拡大を図る事業、鑑賞公演とワークショップ等を連動させた事業			
開催日時	平成21年7月24日(金) 開演18:30			
会場	とりぎん文化会館 小ホール			
入場料・参加費 (友の会・団体)	一般 3,000円 (2,500円)	大学生以下・foreigner 1,000円		
集客状況	入場者数 443名	設定席数 500席	集客率 88.6%	
事業費状況	予算額	収入 852,500円	支出 1,255,000円	収支比率 67.9%
	決算額	収入 1,156,500円	支出 1,007,701円	収支比率 114.8%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日初めて生の落語を聞かせてもらいました。すごく感動しました。ぜひぜひまた鳥取に来てください。 ・ 体全体で演じられてとても良かったです。 ・ 雀々さんの話は師・枝雀さんの姿をかい間見たような気持ちになりました。しっかり受け継いでおられます。嬉しい。 ・ 公演内容(ネタ)が今現在世の中で起こっている事象をつぶさに取り入れ、古典と上手に組み合わせたのが大変良かった。 ・ 年3回くらいのペースで続けてほしい。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古典芸能のセット券は、落語と野村家狂言という話題性の高い公演だったため、コアなファン層はもとより、新規顧客を獲得するための有効なツールとなった。 ・ 広報を早い時期から展開でき、口コミで広がりを得た。 ・ ニーズや話題性が相まって、公演の約1か月前には完売となったうえ、収支もプラスにすることができた。 ・ NHKの朝の連続ドラマをで紹介された演目で、興味を持った来場者があり、演目の設定がマッチしていた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層の取り込み。 ・ プレ事業として実施した「ARTS FOR EVERYONE ココロのサブリ」からの観客動員。 			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場内に弾けた笑いがなによりの成果。 ・ 年配。特に男性の観客誘致に素晴らしい成果があったと思う。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般市民に対して、日頃文化運動を行っている人たちの参加が少ない。文化と大衆芸能が分離している間は、まだ本当の文化運動が根付いているとは言えない。 ・ 会場が狭くもっと古典落語鑑賞者があったのではなかったかと懸念した。 ・ 子どもたちに多様な文化に触れる機会を与えたい。 ・ やはり寄席はもう少し軽い出し物で、複数の噺家が演ずる形態が良いように思われる。 ・ 落語を鑑賞する環境としては、やはり無理があったと思われる。桂雀々もとすれば声を張上げながらの語りで、痛々しい感じがあった。咄家の表情、息使いなども含めて鑑賞するには、寄席の大きさ、財団主催の興業としても再考の余地は無いのか？ 			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層等に古典芸能に目を向かせるために、人気のある落語家の選定など愛好者拡大への手立てを行う。 ・ 顧客の興味・関心を引くため、出演者・公演内容等の検討(落語でいえば、上方落語の次は江戸前落語、古典の次は創作、開催地区の変更など)を行うとともに、新しい取り組みを提供するようにしていく。 ・ セット券等のチケットを設定し、販売促進に繋げるように工夫する。 ・ 事前に完売が見込める事業についての団体希望購入については、多数の空席が出ないよう対策を行う。 ・ 事業間の計画的な連携を図り、動員に繋げるようにする。 			